

大相撲初場所観戦日記

開幕前のマスコミの騒ぎの的は、新横綱誕生か新大関誕生かの二点に絞られていたが、場所が始まってからの日々の取組は、そのような切り口とは関係なく、「一日一番」の取組を積み上げる面白さの方が勝っていた。プロのスポーツマンと言えども、初日には多少の緊張があるものらしい。初日の相撲を見ての印象もいくつかあったのだが、それは省略して、序盤戦(五日間)が終わったところで気がついたことを羅列してみることにした。

●序盤戦を終えて見えた景色

新入幕の**大の里**は192cm・187Kgのほぼ完成した体躯。アマチュアでの戦績をひっさげて幕下10枚目格付出でのデビューなので、まだ大銀杏にはなっていないどころか「ちょんまげ」にもなっていない。大きな体で、立ち合いの強い踏み込みのあと体ごと使って前進圧力、しかも土俵際での腰の割り方などなど、新入幕とは思えない堂々たる相撲で4勝1敗。この先何か大きな働きをしそうな予感がする。

朝乃山が落ち着いた相撲で、しかもほぼ完成された「朝乃山スタイルの右四つ相撲」で土つかず。表情もよく、上手い・早い・強いという印象。

これまで後ずさりしながら相撲をとる欠点があった**琴ノ若**が、前に進みながら仕事をできるようになってきた。体を活かした寄り身で、全勝で序盤を終った。少しばかり進歩した感じがするので、この先の崩れがなければ……。

大栄翔も4勝1敗、一心不乱に自分の相撲に徹している熱心さが滲み出ている土俵で、好感を感じる。

照ノ富士と貴景勝は、腰の構えと足元の動きを見ていると、いずれ崩れる日がくるのではないかと感じる。

照ノ富士は強引・乱暴な相撲で勝ち星を拾っている感じがするし、**貴景勝**は土俵の昇降時の足の運びを見れば調子がよくないことはよくわかる。

翠富士に不覚をとり1敗になってしまったが、**霧島**は比較的落ち着いた相撲が取れているように感じた。

●中日を終って

大の里は並み居る大先輩をことごとく退けて、7勝1敗で中日を終えた。相変わらず前にかけていく圧力とスピードは目を見張るものがある。黒星は、三日目に阿武咲の立ち合い一気の猛スピードに運ばれた1敗のみだが、その翌日からは自らが立ち合いの速度を改善しており、日々の一番や相手の相撲の特徴を予め知った上で、それへの対策が打たれている感じなので、かなり勉強しているように見える。

阿武咲の今場所は適度な低姿勢で、立ち合いから一気に攻め続けて行く「阿武咲らしさ」が溢れており、初日に琴勝峰に敗れた他は黒星なし。

好調な**朝乃山**に黒星を付けたのは大ベテランの玉鷲だった。朝乃山の巧みなさばきを封じようと矢継ぎ早に繰り出す両の手に襲われ、感激をぬって挿した腕で力強く掬われて横転。勝ち続けると予想していた安定感のある朝乃山を破った39才の玉鷲に拍手。玉鷲は5勝3敗で中日を終えた。

琴ノ若の相撲も変わらず、不戦勝の恵みも受けて、6日目の若元春戦に敗れた1敗だけで7勝1敗。唯一の黒星を付けた若元春も3敗ではあるが本来の力を取り戻してきて今後が楽しみな相撲ぶり。

4日目に翠富士に敗れた**霧島**は、中日の土俵で翔猿に好きなように動かされて、引き技に入ったところを押し込まれて惨敗。霧島に黒星を付けた力士は二人とも小柄で俊敏に動き、多彩な芸を持つ力士なので、こういった力士に対応出来ない部分があるということから、好調なコンディションではないことがうかがわれる。

照ノ富士も3日目の若元春戦に続き7日目に正代の立ち合いからの猛スピードの攻めに屈して、暗雲が立ちこめてきた。そんなこんなで、中日を終えての成績はこんなことになってしまった。

7勝1敗	琴ノ若、朝乃山、阿武咲、大の里
6勝2敗	照ノ富士、霧島、豊昇龍、大栄翔、王鵬

●10日目をもって見えた景色

大の里は9日目に明生を破り、いよいよかと思わせたが、10日目に琴ノ若と対戦することになった。**琴ノ若**の立ち合いからの猛スピードに襲われて、なすすべもなく敗れ2敗に。

朝乃山が中日の玉鷲戦で土俵外に転がされて9日目から休場。不戦勝を拾った阿武咲だったが、10日目に霧島戦となり、軽く叩き込まれて2敗に敗退。

サバイバルが始まった最中、照ノ富士は相変わらず粗雑な取り口ではあるが白星を重ね、豊昇龍もきわどい流れの中で上手く星を拾って、いずれも2敗を堅持。

9勝1敗	琴ノ若
8勝2敗	照ノ富士、霧島、豊昇龍、阿武咲、大の里

結果として、琴ノ若が単独トップという状況になったが、これから直接対決や後に続く3敗の好調力士との対戦が組まれるので、余談を許さぬ状況。

●11日目

10勝1敗	琴ノ若
9勝2敗	照ノ富士、霧島、豊昇龍

大の里と阿武咲は連日上位陣との割りが組まれて、遂にこの表から消えてしまった。一方、琴ノ若の相撲は落ち着いて前進圧力をかけながら進む攻めが衰えず、10勝目をあげて、トップの座を守った。

結果として、関脇琴ノ若の後は横綱と二大関が追う形になり、直接対決による結着の図式が濃厚になった。

●12日目

横綱・大関・関脇に絞られた賜杯争いになったので、今日からは前半戦は静かな会場になった。

琴ノ若は頭を下げすぎた阿武咲を叩き込んだが、流れとしては阿武咲が自滅したような内容だった。

豊昇龍は隆ノ勝を転がし、霧島は玉鷲を叩き込み2敗を堅持。結びの一番は史上あまり例の多くない横綱と新

11勝1敗	琴ノ若
10勝2敗	照ノ富士、霧島、豊昇龍

入幕の対戦、照ノ富士は格の違いを見せつけて勝ち残った。

四力士はそのまま生き残り、賜杯の行方は13日目から始まる直接対決に委ねられることになった。

●13日目

国技館の観客の大半は、2敗の霧島・豊昇龍の大関対決と1敗の琴ノ若と2敗の照ノ富士の対決を楽しみにして来たものと思われる。物言いがついた際どい勝負の宇良・翔猿戦が終って一旦静まりかえった後で、再び盛り上がりを見せた。

霧島・豊昇龍戦は、互角の立ち合いではあったが、豊昇龍がやや早めに優位な攻め方を始めた。しかし、一瞬の間隙について飛ばした霧島の左足での二枚蹴りが功を奏した。豊昇龍の落胆の表情が印象的だった。

照ノ富士・琴ノ若戦は、やや腰高の琴ノ若が差し手に喜んで前進するところで横綱に上手をつかまれてしまい、

11勝2敗	照ノ富士、霧島、琴ノ若
10勝3敗	豊昇龍

呆気なく寄り切られてしまった。差し手に拘るよりも浅い上手か前みつを狙って横に動いていけば勝機はあったと思うが、残念な結果に終わった。

優勝争いは照ノ富士・霧島・琴ノ若が2敗で並び、次のステージに移ることになり、相撲協会としてのメンツは何とか保たれた感じになった。

●14日目

昨日霧島の二枚蹴りで土俵中央に転がされた豊昇龍は膝の靭帯を痛めて、今日から休場。照ノ富士は幸運な1勝を手に入れることになった。3敗力士は誰もいない状態になってしまい、霧島・琴ノ若戦が急遽結びの一番と

12勝2敗	照ノ富士、琴ノ若
11勝3敗	霧島、

いうことになった。

立ち合いはほぼ互角と見えたが、琴ノ若の怒涛のような前進圧力が勝った。

照ノ富士・琴ノ若の直接対決はすでに終わっており、千秋楽の本割りの展開

次第では優勝決定戦となる可能性も出てきて、興行的には最高のお膳立てとなった。

さてここまでを終えて、今場所の三賞はどうなるだろう。いつものように私案を考えて見た。

琴ノ若が優勝の場合は、殊勲賞=琴ノ若・技能賞=該当なし・敢闘賞=大の里

照ノ富士が優勝の場合は、殊勲賞=若元春・琴ノ若・技能賞=該当なし・敢闘賞=大の里

●千秋楽

優勝の行方を左右する取組の二番前に、宇良が竜電を「伝え反り」という珍しい決まり手で破り、館内は沸騰するような盛り上がりを見せ、歓声の余韻がかなり長く尾を引いていた。

琴ノ若は翔猿を上手投げで退け、照ノ富士は霧島を寄り切り、13勝2敗の横綱対関脇の優勝決定戦となった。

横綱と関脇の違いを見せるような相撲内容で照ノ富士が賜杯を手にした。琴ノ若は同じような体格で同じようにやや腰高の横綱に刃が立たなかったが、横綱より少しでも腰を低くした相撲が取れば勝機はあった。大関に昇進し、さらに上を目指したいと言っているが、体の大きさを取って来た相撲を、少しずつ技巧をこらした相撲に変えていくのが今後の課題であろう。

かくして2024年初場所は、優勝照ノ富士・殊勲賞＝若元春・技能賞＝琴ノ若・敢闘賞＝大の里ということになった。琴ノ若への評価は、「大関昇進見込み」を反映して少々追い風気味だが、私見としては(前述の様に)相撲の内容から見て技能賞には少々疑問を感じた。

また、怪我で西幕下筆頭まで陥落していた若隆景が幕下優勝をして来場所は十両に復帰できそうなので、今年中に元の地位に近いところまで戻ってこられる可能性が出てきた。

以上